

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ウィズ・ユー高座渋谷		
○保護者評価実施期間	R7年 3月 7日		~ R7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	R7年 3月 10日		~ R7年 3月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者が安心して過ごせる環境やそれぞれの特性に合った支援プログラムの提供	<ul style="list-style-type: none"> 初めて経験することや、苦手意識がある物に対し、職員と一緒にやってみたり、その児童の好きなもの、得意な事に結び付け、興味を持って取り組めるよう促しています。 「一緒にできた」「またやってみよう」「今度は一人でできた」等スモールステップを積み、成功体験を増やしています。 利用者からの声にしっかり耳を傾け、興味を持っている事、「これからやってみよう」という事を支援プログラムに取り入れていま 	引き続き、利用者一人ひとりの情報をその都度共有し、全職員で同じ対応が出来るようにする。
2	季節ごとのイベントやプログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> 利用児童は固定曜日の為、行事に偏りの無いよう1か月を通してまんべんなく割り振り、スケジュールを作成しています。 買い物学習等で、近隣のスーパーや飲食店に行き、将来の生活に繋がる支援も行っています。 SNS等を活用し、活動の内容の参考にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大人が全て決めてしまうのではなく、子供たちのニーズも取り入れられるよう、職員会議で話し合っています。 常に見直しを行い、職員で意見を出し日々のプログラムや行事がマンネリ化しないようにしています。
3	保護者(家庭)への支援体制	<ul style="list-style-type: none"> 連絡アプリやLINE等で利用した際の様子を写真等で報告し、子供の成長を共有している。 子供に変化が見られた時点で保護者と解決策を共有している。 	送迎の引継ぎ時や、電話等で情報交換を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者やきょうだい同士の交流の場が不足している。	同じような特性を持っている保護者同士、困りごと等の悩みを共有できる場を設ける事で少しでも心のケアに繋がればと思うが、なかなか実現が難しいのが現状。	一度に開催は難しいが、何日間かに分けて行ったり、時間帯を分けるなど工夫し、開催できるよう計画を詰めていく。
2	小学生の利用が多くを占めており、小学生以上の利用者の活動内容が小学生向けになりがち。	小学生の利用者が多いため、どうしても小学生向けの活動になり中学生には簡単すぎることもある。	年齢や発達のレベルにあった活動の時間を増やし、それぞれにあったグループ活動等を増やしていく。
3	学校や他事業所との連携	<ul style="list-style-type: none"> 相談員との情報共有は行っているが、学校や他事業所と直接情報共有することは困難である。 	直接情報共有が出来る連携が必要